

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

学校名	佐賀市立諸富南小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」や「まとめ」を明確にした授業スタイルや、「聴きあい活動」を取り入れた学び方については確立できている。今後は、一人ひとりの活用の時間の充実を図り、十分な活用 ・読書量が随分増加してきた。家庭での学習習慣や読書の定着・充実に向けて、さらに保護者や地域にその必要性を発信したい。 ・安全で、安心できる落ち着いた学校となってきた。今後も引き続き「生活四本柱」等、基本的な力を育成する日常活動の充実を図りたい。 ・個別最適な学びの充実に向け、児童理解や適切な支援・GIGAスクールについて、適宜職員研修を行っていききたい。
2 学校教育目標	ふるさとを愛し、「夢」「ふれあい」「感動」のなかで、生き生きと輝く子どもの育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な知識・技能を定着させ、それらを活用した問題解決能力を向上させる。 ・一人一台端末を効果的に活用して、児童の思考力・判断力・表現力を向上させる。 ・教育相談の充実、適切な環境調整により、児童支援と個性の伸長を図る。 ・家庭や地域との連携を生かした教育活動の企画力、コミュニケーション力、情報発信力を高める。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価

(1) 共通評価項目				中間評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
●学力の向上 【やる気の子育成部】	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師95%以上	・教職員間でマイプランを共有すると共に、校内研修等により取り組みの促進を図る。		・
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「学習中、友達と話し合う活動を行い、その考えを使って課題を解決することができていると思う」と回答した児童85%以上 ○学習のめあてに向かって、あきらめずに取り組んでいると答える児童85%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol. 2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定するとともに、適用問題に取り組み時間も設定する。		・
●心の教育 【優しい子育成部】	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業を年1回以上保護者に公開する。 ○「ありがとうの木」の取り組みで、カードを毎学期に1枚以上書くことができた児童80%以上 ○「友達に優しくしたり、優しくしてもらって嬉しかったりしたことがある」と感じる児童90%以上	・6月や12月のフリー参観や授業参観時に全学級道徳の公開する。 ・「ありがとうの木」活動で、カードに書く内容の具体例を提示したり、放送で読むカードの内容を精選したりすることで、より自己肯定感を高める活動内容にしていく。 ・「いじめ・いのち」のアンケート欄に「自分のいいところ紹介」の欄を設け、児童の自己肯定感を高めるきっかけを作る。		・
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめを受けたり、いじめたりすることなく、楽しい学校生活を送ることができた」と実感できている児童が90%以上	・毎月、児童アンケート調査を行い、いじめの早期発見に努める。 ・アンケートの調査をもとに、いじめ防止対策委員会に対策を協議し、迅速に対応する。 ・生徒指導連絡会や連絡会でいじめ防止に関する取り組みについて全職員で共通理解をし、取り組んでいく。 ・校内研修等により、いじめの対応方法について学ぶとともに、日々の教育活動の中でいじめの防止と早期発見に取り組む。		・
	◎志を高める教育	◎小学校卒業後の自らの夢や目標をもち、その実現に向けて頑張ろうと思う気持ちを持つことができる児童が80%以上	・全ての学年において学校行事や各教科等を通し、自分の夢や目標を持つことのできる機会を設ける。 ・4年生は二分の一成人式を通して、6年生は卒業に向けて、夢や目標を自ら考え、語ることができる場面を設ける。		・
●健康・体づくり 【元気な子育成部】	●「運動習慣の改善や定着化」	●学校での外遊びの時間が1週間で100分以上の児童80%以上	・積極的に外遊びを奨励し、一日の運動時間を最低20分間は確保する(始業前、業間休み、昼休み、放課後等)。 ・体力を高めるための楽しい運動の紹介をしたり体育の授業で実践したりする。 ・めあてを持たせ「縄跳び運動」「ボールを使った運動」マラソン週間等に取り組ませる。		・
	○「望ましい生活習慣の形成」	○「望ましい生活習慣の形成」 ・「やる気の子育成部」「やさしい子育成部」の計画に基づき、共通認識のもとに全校で統一した指導を行い、「生活指導四本柱」の各柱の定着率80%以上 ・「早寝、早起き、朝ご飯」の定着を図り、児童や家庭にもその協力を呼びかけ、達成率80%以上 ・家庭学習時間やネット・ゲーム機使用の時間について、把握できていると回答する保護者が80%以上	・重点目標達成委員会において取組状況を把握し、指導の徹底を図る。具体的な取組は各育成部で検討提案する。 ・家庭学習ががんばり週間に定期的に行い、家庭に協力してもらいながら規則正しい生活を意識させる。長期休業には「生活チェック表」で毎日の計画をたて、それに沿って生活させるようにする。		・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を全員が遵守する。 ・1ヶ月の時間外在校時間の総計を意識していると答える職員80%以上	・働き方改革に関する研修を学期に1回行い、意識改革を図る。 ・「定時退勤日」を水曜と金曜の選択とし推進する。 ・1ヶ月の時間外在校時間の総計の記録を各自がグラフ化する。 ・会議等の精選を行い、職員の放課後の業務時間を確保する。 ・成績評価週間には、特別校時を設定し、放課後の業務時間を集中的に確保する。		・
	○業務改善意識の向上	○日常の業務に関する課題を、職員自らから見つけていき、年間で10個以上の改善を図る。	・学校行事や日常の業務についての課題を週単位で可視化し共有し、改善を図る。		・

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組				中間評価	
評価項目	重点取組内容		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
○教職員の資質向上	○教員の専門性と意思の向上		・確かな学力の定着と向上にむけて「わかる授業の実践」「振り返りの場の設定と充実」を校内研修等を通して実践化を図る。 ・一人1台タブレットの活用方法を、職員で情報共有する時間を設定する。		・
○特別支援教育の充実と拡張	○支援が必要な児童に対する理解と支援の在り方		・担任や級外、生活支援員、特別支援教育支援員同士の情報共有の場を確保し、児童理解に努める。 ・児童の困り感に寄り添い、早期発見、早期対応を行う。 ・「職員連絡会」等で見守りたい児童の状況について報告し、全職員の共通理解を図る。 ・月1回の「生徒指導協議会」では、児童への適切なサポートについて協議する。 ・スクールカウンセラー、巡回相談訪問、ケース会議を通して、支援方法を探るとともにミニ研修会を実施し特別支援に対する啓発活動を行う。 ・個別の支援計画をもとに、継続的な支援を図る。		・
○家庭や地域との連携を生かした教育活動の醸成	○コミュニティスクール立ち上げに向けて、教職員やPTAの機運を醸成する。		・教頭が窓口になり、諸富校区3校に1名配置された地域教育コーディネーターと連携し、夏季休業中に「コミュニティスクール」について研修会を行う。 ・各学年毎に、ゲストティーチャーやPTA・地域ボランティアの登録表を作成する。		・

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
--------------------	---

